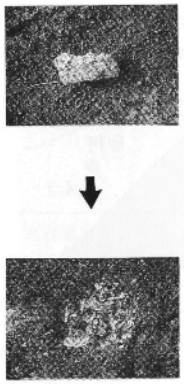
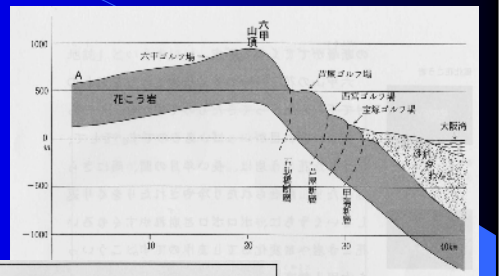
3　逆瀬川の変遷

六甲山のおいたちと特ちょう

風化花こう岩



こなごなになった風

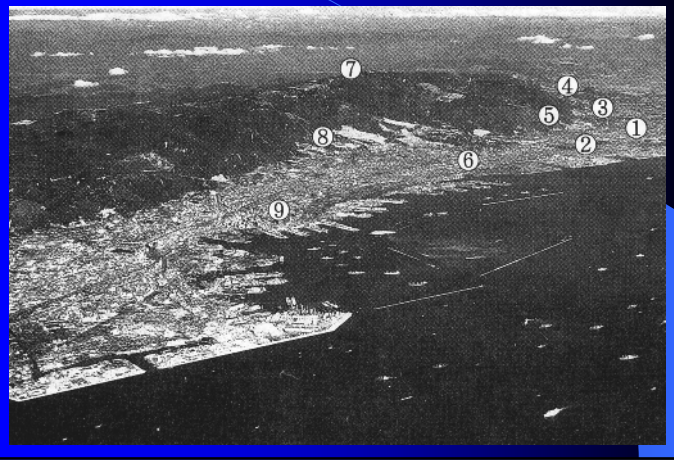


藤田和夫「日本列島砂山論」より

六甲山の川の多くは、ふだんの時はたいてい水が流れていない。六甲山のたくさんの谷からは、土砂がさかんに流れ出ている。だから、川底は年ごとに土砂でうずまっていく。どの川の川底もまわりの家や建物より高く、人々は『天上川』とよんでいる。

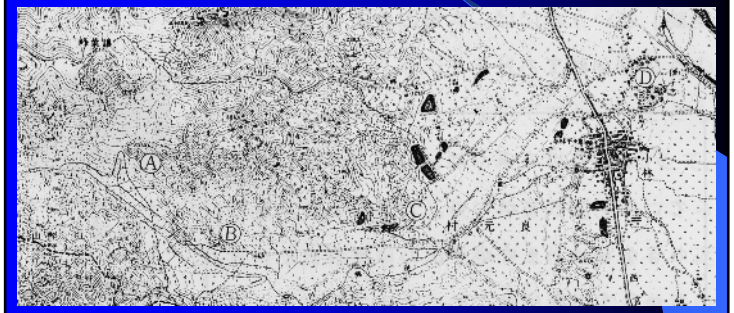
「兵庫県管内地誌」(明治12年)

六甲山のおいたちと特ちょう



逆瀬川と武庫川

明治時代終わり頃の地形図



毎年、大水やこう水によって、人が流されて死ぬ。そして、橋のつけかえ工事やそのためのお金のくめんに大変である。大正4年の良元村の記録

逆瀬川の砂防工事

昭和４０年頃の地形図

逆瀬川の砂防工事

逆瀬川の砂防工事

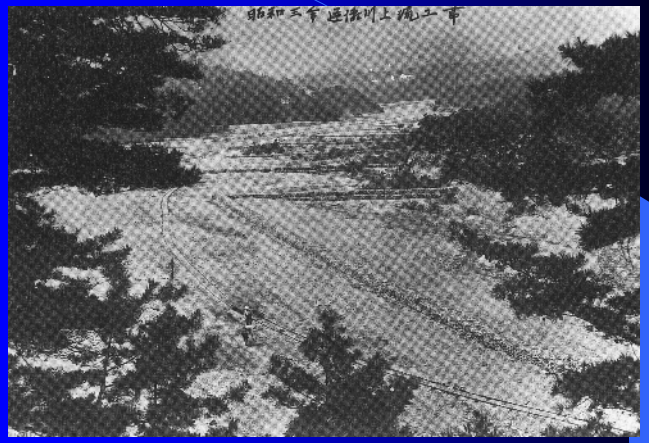
明治時代のゆずり葉台ふきん

山腹工(さんぷくこう)完成後

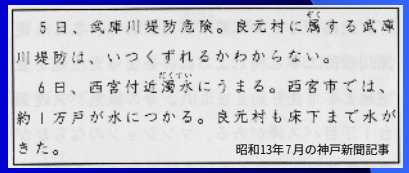
逆瀬川の砂防工事

昭和３０年ごろの逆瀬川上流の砂防えん堤

逆瀬川の砂防



逆瀬川の砂防工事（阪神大水害）

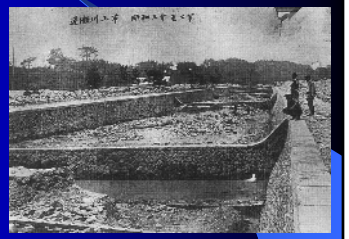


５日、武庫川堤防危険。良元村に属する武庫川堤防は、いつくずれるかわからない。

６日、西宮付近濁水にうまる。西宮市では、約１万戸が水につかる。良元村も床下まで水がきた。

昭和13年7月の神戸新聞記事

逆瀬川の砂防工事



4　先人の取り組み

流れる水の働き

雨がふると地面に水たまりができ，しだいに低い方へと流れていきます。

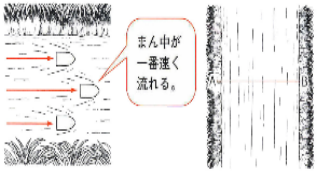
チェック
流れる水の３つの働き
- けずる（しんしょく作用）
- 運ぶ（運ぱん作用）
- 積もらせる（たい積作用）

〔雨上がりの地面のようす〕

川の流れの速さと川底の様子

- まっすぐ流れる川

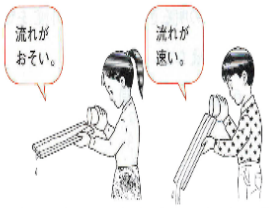
まっすぐ流れる川ではまん中ふきんの流れが一番速く，けずる働きも大きくなります。したがって，川底はまん中ほど深く，大きな石が残ります。



〔A－Bのだん面図〕

水の流れの変化と働き

水の流れが速いと，けずる働きと運ぶ働きは大きくなりますが，積もらせる働きは小さくなります。

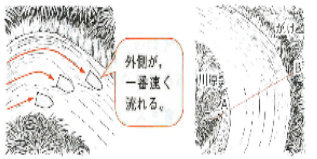
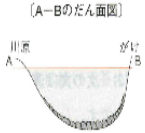


〔かたむきが小さい場合〕〔かたむきが大きい場合〕
地面のかたむきが大きいと，水の流れは速くなる。

川の流れの速さと川底の様子

- 曲がって流れる川

板きれを同時に流すと，外側の方が内側より速く流れます。このように，曲がって流れる川では外側の流れが速いため，けずられてがけになっています。内側は流れがおそいため，土砂が積もって川原ができます。したがって，川底は外側ほど深く，大きな石が残ります。



〔A－Bのだん面図〕